

画像診断上深達度 M と診断したリンパ管侵襲陽性 SM1 分化型小胃癌の一例

石井 学, 武田 昌治, 楠 裕明, 本多 啓介, 鎌田 智有,
古賀 秀樹, 畠 二郎*, 垂水 研一, 藤田 穰, 佐藤 元紀,
田中 俊昭, 黒瀬 浩通, 山中 義之, 平林 葉子**, 平井 敏弘**,
伊禮 功***, 定平 吉都***, 春間 賢

症例は75歳男性。胃癌検診のため当院にて上部消化管内視鏡検査施行。胃前庭部前壁に小発赤を認め、生検にて Group V (tub2) のため、精査治療目的で当院に入院となった。上部消化管造影検査、上部消化管超音波内視鏡検査等施行し、深達度 M、Type 0' IIc の胃癌と診断し、内視鏡的粘膜切除術（切開剥離法）を施行した。病理組織検査で病変は Type 0' IIa + IIc、大きさは 6×5 mm、粘膜筋板より 378 μm 粘膜下層に浸潤しており、脈管侵襲は陰性であったが、リンパ管侵襲は陽性であった。組織型は tub2 であった。リンパ管侵襲が陽性であったことから、患者（医師）に十分な医療情報を提供し、同意のもと、腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行したが、リンパ節転移は認めなかった。

(平成18年3月18日受理)

Early Stage Intestinal-type Small Gastric Cancer with Lymphatic Vessel Invasion ; Report of a Case

Manabu ISHII, Masaharu TAKEDA, Hiroaki KUSUNOKI, Keisuke HONDA,
Tomoari KAMADA, Hideki KOGA, Jiro HATA*, Kenichi TARUMI,
Minoru FUJITA, Motonori SATO, Toshiaki TANAKA, Hiromichi KUROSE,
Yoshiyuki YAMANAKA, Yoko HIRABAYASHI**, Toshihiro HIRAI**,
Isao IREI***, Yoshito SADAHIRA***, Ken HARUMA

We report a case of early stage intestinal-type small gastric cancer with lymphatic vessel invasion.

When a 75-year-old man underwent endoscopy during a medical check-up, the endoscopic study showed a slightly reddish lesion on the anterior wall of the antrum.

A biopsy specimen of the lesion was diagnosed as Group V. The results of an upper GI series, endoscopy, and endoscopic ultrasonography (EUS) lead us to diagnose the lesion as a mucosal gastric cancer. We then performed endoscopic submucosal dissection (ESD). The

川崎医科大学 内科学（食道・胃腸）
〒701-0192 倉敷市松島577

* 同 検査診断学
** 同 消化器外科学
*** 同 病理

e-mail address : gastro2@med.kawasaki.ac.jp

Department of Internal Medicine, Division of
Gastroenterology, Kawasaki Medical School : 577
Matsushima Kurashiki, Okayama, 701-0192 Japan

tub1 症例で内視鏡的粘膜切除術施行され、深達度 SM2, v 陽性 (追加手術, ly, N は不明) の一例が、また堀口ら²⁾による 10×7 mm 大の pap 症例で深達度 SM2, ly2, v1, N1 (内視鏡的粘膜切除術後に胃部分切除施行) の報告がある。また、Aoyagi ら³⁾による 10×7 mm 大の pap 症例で幽門側胃切除、D2 郭清され、深達度 M, ly 陽性, N1 (v は不明) の報告がある。伊藤ら⁴⁾によると、一般に pap 症例は分化型胃癌の中では予後が悪いといわれている。

また、本症例では粘液形式をみるため、免疫染色を施行したが、MUC2 陽性, CD10 陽性, M-GGMC-1 陰性, HGM 陰性であり、腸型分化型胃癌であった。伊藤ら⁴⁾、遠藤ら⁵⁾が胃型、腸型胃癌についての悪性度、特性について述べているように、一般的に分化型胃癌において、腸型胃癌は胃型胃癌と比較し悪性度は低いとさ

れている。しかし、本症例では分化型小胃癌であり、さらに腸型胃癌であるにも関わらず、SM1 浸潤でリンパ管侵襲陽性であった。猪狩ら⁶⁾によると SM 癌であれば、ly0 であっても 1.9% の頻度でリンパ節転移を認め、また ly1 なら 21.6% の頻度でリンパ節転移があるとされている。

以上を踏まえると、腸型の分化型小胃癌でもリンパ節転移の可能性のある、つまり悪性度の高い症例が存在するという意味で本症例は意義があったと考えられた。一方、当科の 58 例の検討では分化型小胃癌のうち、SM のものが、本症例も含め 6 例全てがいずれもリンパ節転移はなく、高齢者胃癌が増加している現在においては、特に合併症のある患者であれば、SM の分化型小胃癌では、内視鏡治療の適応を拡大できる可能性もある。

文 献

- 1) 武田雄一, 高橋 真, 伊藤ゆみ, 他: 特異な粘膜下層浸潤像を呈した小胃癌の一例. *Progress of Digestive Endoscopy* 67: 69, 2005
- 2) 堀口慎一郎, 滝澤登一郎, 船田信顕, 他: 粘膜内癌と診断された sm 癌で追加治療によりリンパ節転移が確認された胃型の分化型腺癌の 2 症例. *胃と腸* 38: 739-743, 2003
- 3) Aoyagi K, Koufujii K, Yano S, et al: A case of small mucosal gastric carcinoma with lymph node metastasis. *Kurume Medical Journal* 50: 49-51, 2003
- 4) 伊藤栄作, 滝澤登一郎: 分化型胃癌の悪性度. *胃と腸* 38: 701-706, 2003.
- 5) 遠藤泰志, 渡辺英伸, 本山悌一, 他: 胃型・腸型腺癌の特性. *胃と腸* 38: 57-65, 2003
- 6) 猪狩 亨, 中村二郎, 滝澤登一郎, 他: 胃 sm 癌の病理. *胃と腸* 32: 21-29, 1997